

〈感想〉 2010年2月21-24日、ニュージーランド・オークランドで開催された国際水理学会主催の、第17回アジア・太平洋国際会議（IAHR-APD2010）に参加し、風波乱流ダイナミクスに関する研究成果について口頭発表を行いました。（発表時修士課程1年）以下、渡航に際して有意義だったと感じる点について、列挙します。

・語学面

英語圏への渡航は初めてであり、コミュニケーションの難しさを感じた。

相手を理解することについては、1対1で話す際は問題なかった。相手がこちらの英語力を考慮してゆったりとしたペースで話してくれた／難しい単語を用いず、簡単な単語の組み合わせで実にうまく表現していたからである。発表聴講時は、スピーカーの話す速度が速かった／聞きなれない単語があったので、難しかった。

こちらのニュアンスを伝えきることは、とても難しいと感じた。特に、発表終了後の質疑応答や、会話でこちらが話す順番になったときに、定型表現が使えないときに苦心させられた。簡単な単語の組み合わせで、いかにうまく表現できるかを、日頃から練習しておく必要があると感じた。

・文化面

気候、風土などは日本と違い、知見を深めることができた。

・その他

発表会場のオークランド大学では、多くの学生と知り合いになることができた。

様々な国からの留学生がいて、中でもパキスタンという遠方から来ている学生もいた。彼らはみな一様にモチベーション高く研究しており、その姿勢に自分の行いを反省させられた。総じて、とても思い出深い貴重な時間となりました。就職活動中の学会発表であり、多少の不安はありましたが、それでも決心して行った甲斐が十二分にありました。

このような機会を与えていただいたことに深く感謝するとともに、後輩たちにも同様の経験のしてもらえよう、この助成制度が続くことを強く願っています。